

入急

本草  
河上  
物類  
九

2236

小夜流巻之中九



才四十一 極樂への苦状

才四十二 閻魔王九思と苑

才四十三 恩送り

才四十四 禽獸狩り

才四十八 棄衣懸衣

小夜流巻之中九

才四十一 極樂への苦状



素廣王大王のいそむらうらうらり審よけけるハ

いそむらうらうらり審よけけるハ

世敷(使言)とまゝとていそむらうらうらり審よけけるハ

いそむらうらうらり審よけけるハ

いそむらうらうらり審よけけるハ

いそむらうらうらり審よけけるハ

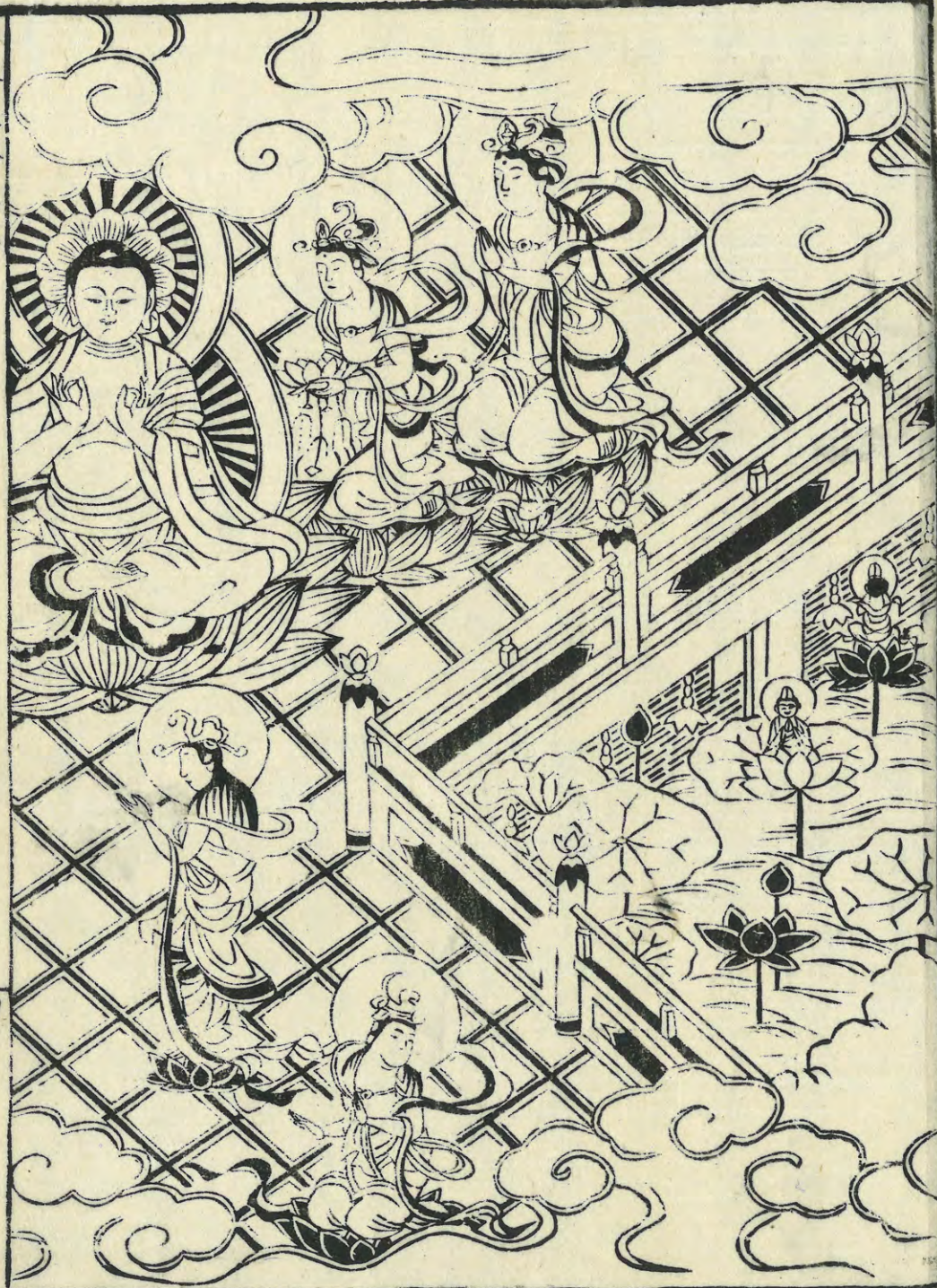
いそむらうらうらり審よけけるハ

いそむらうらうらり審よけけるハ

いそむらうらうらり審よけけるハ

深きところにて身をたれ使言告状の由りり敷  
万里の波濤とものごと安んずるへあつて唐の  
始皇帝は不老不死の術を求めて蓬萊の  
方丈瀛洲の三神山をめぐりて童男の女孫の中  
より年月を待ちて唐帝は玄宗貴妃の一人に  
しつとめりて魂魄の有家とて由りてあがりし  
上碧落下黄泉遠く彼岸のうへはあがりしは  
閻王の使言の万里の陰波とものごと極楽の  
門はあがりて先づ先づとあがりてあがりて  
均成の極楽とてあがりてあがりてあがりて  
金銀瑠璃瑪瑙珊瑚琥珀真珠水晶玉枝り

はかりの身は黄赤白紫の光とわたりてあがり  
七宝の網とものごと宝珍の光とわたりてあがり  
帯住の網とものごと月毎の月宮殿の宮殿とあがり  
玉の網とものごと錦の帳の中は蕭韶琴瑟の調と  
あがりて天童二六時中百子の妓樂の奏とあがり  
八徳佛の像とものごと百味の飲食とあがり  
くものつら飽満に又くくくくくくくくくく味  
車あがりてあがりてあがりてあがりてあがり  
うぐの常樂我淨の風吹く若空の雲の霞とあがり  
鬼馬の驚きとあがりてあがりてあがりてあがり  
空蓮華の開けつてあがりてあがりてあがりてあがり



危の玉とどがり。毘楞伽室の臺より摩尼真珠の網  
と張。如來圖字檀金ののちのみく。威徳を現くま  
け花乃巻よ序しとむひ。三十二相のお好とやうくふ  
まのざらり。眉間白毫ハたよめざらり。婉轉にみ  
わひ。億千の星天の日月ハあそ。雲量に化佛化菩薩  
を觀音勢至普賢文殊のおま元ハ光明の中ニ現  
天人々々云ハやうよあのみり。星のどくふけたりて  
自にぞし樂器の拍子よ合。微妙ハ音楽とてあそむ  
空より曼陀羅華より。沈檀の具香世界よりなり。西  
糸雲たさびなハ。瑠璃の幡天よのるく。お玉巻の壯嚴  
えぬよ目と驚。寄異の法音と聞よ。耳にとゆせわ

常世の世やまの世ハ。輪く老に無量仏とて時ハ  
命を死せばも。常経よりひたり。おふのわ。はよ  
樂のやうなより。比とてなり。遊戯こそよまうとせ  
むわ。使さるるらよ。ぬひの心。開及のら。おんま  
りて。げらう。成の事。か。げ。夜。使。よ。ま。つ。は。何。こ  
して。ハ。お。世。を。身。心。命。こ。げ。ま。く。愛。よ。居。り。事。は。な。り  
か。ハ。ハ。込。込。れ。と。さ。く。お。よ。ま。佛。く。や。り。果。ハ。光。に。何  
も。さ。れ。ど。圖。玉。ハ。乃。不。屈。子。万。法。王。佛。掌。の。文  
え。ん。可。も。い。と。し。ま。う。上。佛。も。ら。れ。笑。を。及。て。せ。多。い。と  
比。乃。さ。さ。こ。者。か。れ。る。愛。小。ハ。と。く。中。に。れ。お。く。他  
ら。ま。さ。く。又。中。有。よ。さ。ぬ。ふ。な。り。但。生。れ。人。鬼。部。於



五百廻也去仲春御為追福令免許罪人之處乍  
 撒恩會離引卒數軍燔掘羅刹之城擲矣如之羅  
 自又於九派之北室縛黑繩於十侶之東宮聽人  
 焦心觀者驚自冥官獄卒等啗牙瞑目勉防戰  
 便味方邪見之及敗膚猛暴之簇碎骨蹟皆骸  
 如山涌益血似川言語道斷之狼藉也早不顛  
 彼僻豈有黃泉安穩乎憐而怖佛勅而已誠恐  
 誠惶謹言

天文 辛 初秋日  
 奉獻 二尊佛前

羅刹等三拜

とぞ書るなりてふ

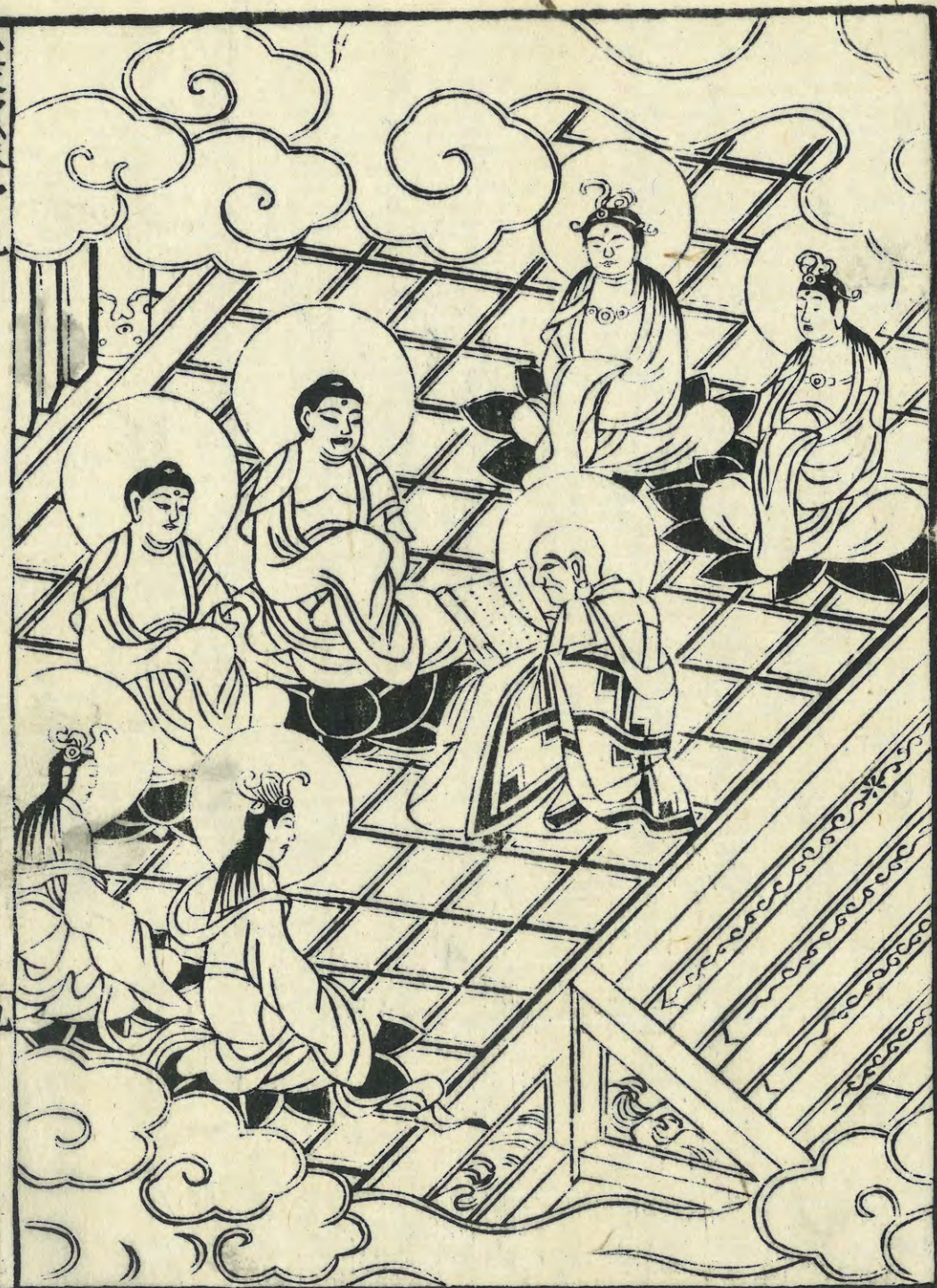
才四十二 阎魔王九惡寺院已

二考同石まてく竜眼の眼とい個とうらふをせぬハハ前よか  
 之居さてくゆふ徳仏徳菩薩之御女の神女ぬゆ  
 所ふ使言冠を比よ付周とて入りてを心ひきき  
 淫進尸上及と存く人九極長國く小滿くらまことと  
 ぶ向。その上冥友獄見名ハ多くうへれがくらの心獄卒  
 も或底と痛或ハ働よけれまけけはけけはけけはけ  
 内々ハ命令之節。ゆへに十五ハ通精舎一在  
 了了ハ内。田ハ潤復ハ泡水ハ息けハ情と上  
 秋を中石さしてかげりてて云かぐる徳方と  
 才ハ閻魔ハ所行ハ何もの程もや。めぐりよからとく

之人の能業将まわして先て不突ハ沙汰のこわく  
重恩のよゆるせの責もまゝ人鬼の亡人重科  
おふかふ唯とのザリひまくれ遊具とのこらとよ  
せまいたる下よ友とあのみ友ららるの池より  
らまび秋ハ月のあし酒あんらんさくもあくも  
白雲ハ待成吟ぐ秋と涙どかたにくりゆく。いぞ  
の程よ待秋管絃ハ沙汰入も同魔王ハ雙管ハ  
ぬいとりんくさく。割るやばり死来ハ亡人ハ中  
よ飛障中ハ男女よりび秋と漢行成作るあぞ  
くまてハまら飛とのゆー遊あよよせそ是とばさ  
たべ允儒及とまの文道とまをなまそ世のと作中

和歌と涙どかまも。まをくれむ勢よよつてあま  
あゝびそれと戒めくハおそれ先との身はとどこ  
さわとけとんがとまらばけりらくそのいへ  
いへせまめハげハまふたよのそ地獄とらけ  
あ程のまがこまんととまらばけりらくそのいへ  
中ハ能廻まらまら今度何の用ハ小ハらとらとら  
改むららららららららららららららららららら  
卒よまららららららららららららららららららら  
く。吾人の比獄ハ為悪人の法まよ送るくハ不後と  
うららららららららららららららららららららら  
まらららららららららららららららららららららら





かりてあびのち。使言はる願としもなげ。身くわりてら祇  
 院始末のまじひきりハ。秋の月の夜にむねのあはく  
 友ありかぎり。闇魔のまむねのむねに比獄をまがれ今  
 とや命計てもすけしやまかればじざん今下とばんを  
 とや亡人をたてのまじひやちせまひ。闇魔王と二  
 こころらるるまじひも命のまじひにまじひとされおの  
 命のまじひも。仏の利益ありくも又命のまじひを  
 才のまじひも。使言はる願としもなげ。身くわりてら  
 とうりひありてのまじひにまじひとされおの  
 実と祇院始末のまじひの相ふかおあはくも命のまじひ  
 徳に徳菩薩とまじひとまじひつけ使言はる願としもなげ

那さ小聲とたてり。使言はる願としもなげ。身くわりてら  
 陀来のまじひも。使言はる願としもなげ。身くわりてら  
 薩一回のまじひも。使言はる願としもなげ。身くわりてら  
 闇魔王と命とばんをまじひにまじひとされおの  
 ちも肉のまじひも。使言はる願としもなげ。身くわりてら  
 仏とひのまじひも。使言はる願としもなげ。身くわりてら  
 かの觀者ハ大慈大悲のせいざん之に比たれりしとまじひと  
 だれ徳化かれれば及み善菩薩に徳へ来成あつてまじひ  
 在ふに徳徳といふまじひ也。闇魔王今下とばんをまじひ  
 富樓那と命とばんをまじひにまじひとされおの  
 きたまじひ也。使言はる願としもなげ。身くわりてら

うし。十五小ハ五者山九悪者と位布よけ入る人ハ善悪  
性生極末くまへし。二多修後なる。觀音比苑富樓那  
仏教とつじり。点比獄よ奉りしむ。比獄の淨と  
洗どれいおんれし中しく目もあくらぬ。牙才りお  
弘教の也委亡人ぞし。修くこ。何ぞ人の中せしり  
くき人あまき。あまきいふ。弘の修なり。こ。是。修。ま。ん  
く。え。敵。と。多。む。む。して。修。は。圖。魔。と。な。ど。け。亞。あ。ら。ん  
あ。び。ね。劫。茶。け。あ。し。取。く。よ。は。が。や。こ。あ。り。の。や  
あ。不。よ。か。り。分。列。を。の。小。松。の。内。太。長。重。盜。乃。那。り。あ。ら。ん  
皆。何。を。各。く。い。思。業。久。と。交。亦。命。ふ。け。て。比。獄。と  
や。り。教。位。の。可。友。獄。卒。を。打。り。つ。げ。り。し。早。竟。ハ。一

切。此。元。生。戒。人。と。う。ら。つ。ま。修。ホ。を。界。へ。修。は。よ。あ。ん。こ  
く。あ。や。う。い。つ。び。や。け。教。位。の。あ。か。く。弘。教。は。ま。じ。こ  
修。ま。く。ま。び。修。は。觀。音。比。苑。富。樓。那。三。位。と。し。か  
し。か。し。の。く。わ。て。ま。つ。く。は。ま。ら。ま。ら。弘。敵。と。こ  
石。彼。重。の。性。生。中。に。かり。ゆ。又。つ。の。く。小。修。ホ。か。ど  
の。と。こ。り。や。も。ま。ま。と。修。の。分。列。久。今。く。も。思。業。不。か  
ま。や。く。四。修。り。と。せ。あ。の。く。と。ま。ふ。小。伎。回。性。生  
見。し。せ。な。と。あ。り。た。ら。い。阿。魔。王。命。を。ら。り。い。は。ま。り  
及。上。下。や。く。百。八。又。捨。見。事。に。つ。き。ま。る。修。あ。ら。ん  
ふ。氣。は。ま。ま。り。ら。り。が。い。修。く。二。度。比。獄。と。り。こ。ん  
ま。か。り。い。し。う。く。ん。修。こ。う。う。も。弘。よ。ま。う。せ。ひ。ん。て





松凡さしとれが戸がそとごとくてもきとせむ幾日  
 されどつもくおれは程と昔とあひなる。世の時の  
 秋物候とやんあそく今ハ秋ととりあつらん物  
 夕ぐさりくまれば礼舞のまじし思ひかたに憂はけ  
 こほくくふまごひ。然りゆも境は神洞は朽ま  
 裳は病よちあまそとて夜とよふとけい過るや  
 とふおとくい嵐のうの後の声あまけと昔の果のさ  
 びいもごとく鳴のこごうで色秋の悲さうりまうい  
 かねぬ心乃奥よ。案れあも戸ていあそく昔の遠  
 夢花ごるやかそと痛くまれ  
 才四十三 恩送り

義経教誨ハ心谷驚野本草と命く落鬼黙特り  
 あふ市の或奥心乃若くれよ。みぬ寛友俱生(養属)  
 やん男女又鬼やうあげはわたり薬けきん後あ  
 てつり鬼の眷属どいおとして生みのびん中入  
 ころぞあまそとくま命にまんとけくはまれ  
 老鬼畏くもさる。案ごの命ハ落宿しりるに  
 純ども毛小申すはに方はそれかたの御主は小方小  
 事な疾又男女乃のこ子達も別あ若事あそくま  
 ちん父いと友大乳の祈。阿魔主(例)のこまれあそ  
 ころ小軍隊うでれくあ中(小)火とけ。焼立(ラ)  
 らし(れ)まの(れ)束(る)事(の)こ思(は)れ(ば)皮(の)代(り)あり



おもひ成めしをさふむの三西の命とすすけを  
 しぬぐ。某は某の親をせしめんがしおくは継る  
 をおしり。よに代合則と流し。頼成地よ付すは  
 教師も義徒もを介し共く信の神成ぬくは  
 教大お佐々親八鬼神は横たぬくは海ホグ事と已  
 が方かおくこころては柳もまほまほのつと入ら  
 うけあ。もつた忠とそり。君臣のたかくともあふこ  
 ものかしちこ誦すまでとねくしなせくんぞう後  
 るべんまは物とまねぞうのんまの流しに果  
 ね何しとま王八の事子どはりなりとすくはつぱ  
 えんとをる多い今命助さなぬらたりはすくとすべ

是十番り小敵をせめ。又道轉輪王乃小れ方とさ  
 ドくし子出小事後くせめ。とすくすく養  
 のり神こころは馬あつとゆりさせあひとては神  
 まのふ方少く申す。まのふくあつとせゆ命  
 と物つとて人老鬼たおんま子にんはふと  
 い大敵の詮見し付。岡王味少くま念れあつと時大敵  
 乃日教多少の論は論まおいぬといあつとすく。日殺  
 と多まのあね。今及らぬと成れさ。いぬふ付く入友  
 まハ和身ぬつていふふまの信人乃すく物くして  
 大宿まの教といふ中よあはれの橋前す。このま  
 ちかろははくぞう。それのをなすくは友まは



教経恨乃失といけ。まゝ失衣大なる痛念もたや  
うけうと云。輪王と云ふ下りてこりやまの恩と云  
いして報せざらんハ樹の多ハ枝と云はれり。徳と云  
て徳と念せざるハ神乃廉以慕と換じかぶぐおやくと  
とり。楊王志乃市うと云。帝と始なり。徳大物法軍  
勢二四乃人うらふ。輪王ハ何らと云はれり。又老見  
其志志乃ハ事也前付未聞なりと云。二子ハ乃方  
并と見と云ふ。まゝ。うけはせ。枯湯と云ゆらまゝと  
者人乃系ハ法大物ハ人ハ見系ハ落見遷治の中ハ  
輪王ハ事ハ事。并と見ハ事ハ人ハ切ハ事ハ事  
ハハ中。事ハ物ハ物ハ事ハ事ハ事ハ初と云ふ。

昨夜の神候うらりハ憐深く。あつと云ふ。後ハバ  
大物と徳軍と云ふ。れと云ふ。わと云ふ。うらハ  
神候わと云ふ。人ハ事ハ人ハ事ハ事ハ事ハ事ハ  
ハ即堂と云ふ。してハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ  
と云ふ。人ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ  
輪王と云ふ。事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ  
事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ  
見いさふと云ふ。輪王ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ  
事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ  
能ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ  
深と云ふ。事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ





サレク乃也んぞくも是でかくして悉飽申しつらふ  
是をまよふかりぬる時長老沙門は計しつらふ後  
ひつかり因縁よすけりぬけ申露とりらふも世を  
より沙門の回我音むいぬる。二宝代書と云り  
不計人の徒書すり成んて歡喜と生ん又非人の  
会を我を見ん。施といふ西洲なりし又盲目の擗を  
後乃時より成り申後には功德は倍く今掌は成り  
い申露とゆけく不事かや成りなり

才口十回 禽獸物の事

和とん敵乃和と山岩ととりり。胎心ヤセしこがせと云  
まわりりして在界中人救とくわり。心と皆とまは

器とくし小茶とく分ち。鬼教の事ハつよは及ん  
悪竜猛虎。然る徳意。鉄鳥猫狗の類根葉と云  
食くこく。義経教経ハ西の方へ持りまへ。頼光  
乳政ハ東南の方へ持りまへ。此の地  
獄の地。羅竜のしつふのうまふ。鉄石と云ふ  
とんやまのまのうまふに大木。洞窟も山邊に  
と悪竜猛虎のすまふ。常々及下なるハ  
洞の中はさうらんともくちらふ。さうは洞の中より  
あれたん。風あつてましまし。さうは洞の中

くらうたれは興のつらやとをまじわひおとすゆべと  
 子計あり。大勢因つまん事し。づかたまははひを  
 此共三十人父子の大お成出なま立。既よつとんとまふ  
 あり。俄に空に黒雲の雷動して車軸の雨降る長  
 敷よなむいし。おはなれもかんじば是をまきたるに  
 処り。向ふふれ者もろし大向指本と吹おくふも岩  
 計も返る。まじりあましくは鞠の大き程の光おすに  
 火二飛び連ま。因の中へ入ぞしかん。しん光おひ  
 いろい残る。少づらりも晴るらやん。およまの  
 常ハ半ニツ計といひし。よ合らなむのけいお山  
 ろり。下ふし。くろく。内なく。龍来る。洞乃前よ

こころ。然くまの悪虎なり。なふ火さかみ。黙地  
 獄あり。き分論安婆あり。於うま。及む。火の  
 色し。まの事母をろし。何あり。わら。中より吹  
 ぬ。火焰甚り。おまじ。悪虎し。まありし  
 きて。おほ。ありぞ。く。え。何およ。け。長。七。八  
 計か。お。悪。火。端。の中。より。わ。わ。お。く。悪。虎。の。お。で  
 肩。背。の。す。く。冷。付。せ。れ。ば。悪。虎。の。り。お。ひ。の。ひ  
 て。悪。竜。が。下。わ。い。洞。と。う。け。く。冷。付。せ。あ。ふ。よ。と。と。た  
 り。る。竜。の。洞。に。い。ま。ん。ら。虎。の。心。の。や。ん。や  
 と。何。よ。ら。り。の。木。葉。し。火。地。の。川。巖。と。動。計。し  
 頼。光。取。政。い。そ。ふ。竹。け。る。は。い。二。八。魚。生。生。れ。る。物

かくはたあやしくあすしれよ。幸己未が考合（考）  
 威をわくそひ死て論じ。れ自滅の相（相）なり。あし  
 むくふ。怨念（怨念）故人のわらたあすしれよ。あ  
 ひ天のわらふ心（心）をこころひのそふ。徳軍（徳軍）よひひわして  
 教（教）子の矢（矢）前（前）と持（持）中（中）一（一）夜（夜）一（一）日（日）の（の）教（教）り（り）二（二）乃（乃）魚（魚）生（生）  
 じ（じ）の（の）い（い）し（し）う（う）め（め）教（教）子（子）の（の）矢（矢）と（と）れ（れ）ま（ま）し（し）た（た）く（く）過（過）行（行）く  
 村（村）付（付）れ（れ）し（し）事（事）。虎（虎）の（の）毛（毛）色（色）し（し）た（た）く（く）び（び）け（け）す（す）小（小）深（深）竜（竜）鱗（鱗）  
 の（の）教（教）く（く）矢（矢）負（負）血（血）流（流）ま（ま）れ（れ）洞（洞）下（下）入（入）る（る）べ（べ）し（し）て（て）ひ（ひ）ま（ま）す（す）  
 虎（虎）の（の）心（心）し（し）て（て）光（光）を（を）ど（ど）して（して）竜（竜）虎（虎）二（二）の（の）あ（あ）ら（ら）う（う）一（一）時（時）よ（よ）り（り）び  
 たり。二（二）谷（谷）血（血）の（の）川（川）が（が）れ（れ）去（去）石（石）草（草）苔（苔）紅（紅）よ（よ）深（深）く（く）り（り）思（思）ひ（ひ）か  
 よ。魚（魚）生（生）た（た）と（と）り（り）が（が）り（り）を（を）自（自）ら（ら）と（と）思（思）ひ（ひ）天（天）の（の）あ（あ）ら（ら）え（え）な（な）れ

まな人（まな）の（の）心（心）洞（洞）入（入）中（中）と（と）り（り）虎（虎）ふ（ふ）よ。先（先）の（の）か（か）が（が）あ（あ）ら（ら）あ（あ）く  
 て。七（七）尺（尺）一（一）丈（丈）計（計）の（の）素（素）地（地）上（上）成（成）わ（わ）へ（へ）し（し）。れ（れ）人（人）が（が）と（と）松（松）明（明）  
 かり（かり）の（の）お（お）ろ（ろ）あ（あ）ら（ら）い（い）し（し）て（て）げ（げ）る（る）夫（夫）小（小）七（七）八（八）子（子）と（と）り（り）  
 命（命）し（し）や（や）皆（皆）人（人）な（な）れ（れ）寒（寒）比（比）熱（熱）の（の）う（う）ら（ら）ら（ら）に（に）り（り）  
 て。鉄（鉄）涌（涌）ふ（ふ）し（し）ふ（ふ）山（山）あ（あ）り（り）。も（も）因（因）つ（つ）る（る）ふ（ふ）化（化）多（多）入（入）東（東）と（と）云（云）  
 け（け）し（し）い（い）東（東）の（の）中（中）と（と）り（り）ん（ん）こ（こ）ら（ら）の（の）教（教）り（り）人（人）持（持）を（を）し（し）る（る）  
 本（本）を（を）あ（あ）ら（ら）り（り）し（し）る（る）と（と）り（り）や（や）せ（せ）ら（ら）れ（れ）し（し）る（る）指（指）多（多）た（た）を（を）と（と）り（り）  
 ぶ（ぶ）ら（ら）る（る）べ（べ）し（し）る（る）遠（遠）近（近）の（の）こ（こ）ら（ら）の（の）台（台）越（越）園（園）成（成）し（し）村（村）の（の）  
 ち（ち）を（を）ま（ま）ゆ（ゆ）の（の）と（と）り（り）東（東）の（の）中（中）と（と）り（り）あ（あ）ら（ら）る（る）葉（葉）の（の）ど（ど）り（り）矣（矣）  
 矣（矣）形（形）の（の）と（と）り（り）し（し）る（る）こ（こ）化（化）多（多）た（た）教（教）り（り）が（が）ら（ら）り（り）あ（あ）く（く）お（お）ら（ら）る（る）  
 り（り）か（か）と（と）究（究）竟（竟）の（の）村（村）の（の）教（教）子（子）人（人）あ（あ）ら（ら）あ（あ）く（く）矢（矢）を（を）し（し）る（る）村（村）の（の）

形とてさかたに地とてしあて多敷の類にけり  
 きくさば折らざし。まゝ遠の中ふさ、十に又矢計  
 の大木にりしを本乃えさぶよ大さかた。化多果と喰  
 びりめさる。ニツカさるびわさる。頭も尾とけら枝  
 又六がどく。けらぶこし。かんてあり。若人町とあり。若  
 毛とて。ひくも。悪く矢帯とさる。村よさく。敷千八矢と  
 一夜よぶ。とされら。あした。用ひど。又大計よさる  
 枝よ。あは。あは。軍兵とて。いんか。の矢とさる。い  
 ち。と。と。あ。い。く。何と。と。か。た。思。と。あ。神。頼。光。教。政  
 と。と。と。め。徳。軍。勢。あ。つ。ま。り。て。是。ハ。何。と。さ。る。と。り。り。す  
 と。い。く。選。治。見。と。取。く。傷。く。許。渡。あ。り。お。政。治。さ。る

されいん。あ。の。ま。さ。め。く。わ。ら。げ。ん。ま。さ。の。こ。わ。さ。べ  
 ち。や。ど。あ。く。ぞ。れ。が。結。と。村。さ。ら。う。村。わ。さ。り。て。あ。て  
 ぬ。園。こ。よ。乃。ぞ。く。三。ツ。む。さ。り。は。は。如。よ。黒。雲。一。村。魁。来  
 つ。結。が。形。ハ。真。の。あ。く。は。矢。け。が。せ。こ。し。定。ま。り。て。只。一  
 つ。南。岳。八。幡。大。善。堂。し。初。急。し。し。何。様。て。放。矢。あ。や  
 ち。ま。び。結。よ。あ。り。せ。ま。か。され。と。残。し。ま。ま。を。氣。悔。く。八  
 幡。大。善。堂。の。御。神。力。と。さ。り。ひ。わ。り。ま。り。し。地。か。り。あ。ま  
 とい。世。と。く。愛。ハ。真。速。黄。泉。か。わ。ら。う。生。ハ。日。身。計。は  
 の。者。た。れ。が。今。建。し。初。と。け。も。ん。よ。ね。ど。ふ。見。と。あ。ら  
 ち。あ。な。れ。某。が。矢。と。先。立。ら。う。と。各。く。今。一。夜。ひ。村  
 ち。多。く。し。つ。つ。く。重。友。の。う。お。ど。り。矢。取。て。け。ひ。い。





まがりの中は南無八幡と祈念し。誓くたものごと  
し。とど放り。そま矢ふらまら代もが。胸先餅袋ぐ  
りし。村ぬりくう。ろよ少根。んくわ代も。うん  
た。と。通。さ。れ。あ。と。く。が。祈。く。あ。ま。り。え。ん。ま。矢。貞  
か。う。ゆ。く。ま。く。又。所。斗。ハ。魁。子。れ。ご。流。血。あ。ん。く  
ゆり。高。方。う。せ。け。り。も。落。し。比。よ。あ。り。ま。い。心。と。案  
矢。教。多。う。り。の。け。り。か。あ。く。切。先。突。ご。ざ。り。く。び  
て。終。よ。ハ。大。勢。あ。て。お。教。く。ま。心。根。結。く。ん。れ。を。頭  
ハ。三。の。あ。ま。は。口。の。あ。お。り。け。ご。く。熱。の。も。し。幾。年。を  
く。心。放。り。も。銅。と。の。ぐ。心。振。た。れ。が。力。ハ。立。為。く。う。し。た  
押。た。わ。れ。政。の。矢。も。祈。力。と。く。祈。海。く。これ。餘

人の矢ハ一筋もまらぬ今乃めざりとい。眞名  
乃に而が頼光よ。う。う。う。う。と。志。け。り。が。雄。が。村。に  
ら。ま。く。と。う。ら。あ。く。と。あ。思。り。ま。ん。の。計。ま。く。魁。云  
と。ま。名。が。け。ご。く。あ。の。か。面。も。ま。か。く。ゆ。り。ご。先  
れ。う。よ。め。わ。ま。こ。け。ご。ひ。よ。い。て。放。ち。ま。矢。あ。ま。ら  
遠。の。そ。が。心。持。が。り。と。け。わ。ご。め。の。く。版。と。こ。と  
あ。ご。の。村。こ。ま。れ。た。る。ご。ん。魁。り。と。ま。ま。あ。く。お。こ  
矢。と。投。け。る。矢。ハ。唯。ら。し。頼。ま。も。祈。貴。矢。持。り  
れ。い。ご。三。所。斗。た。か。ま。く。落。又。六。十。百。に。方。れ。兼。村。た。れ  
と。う。が。ら。黒。煙。と。あ。て。ご。う。つ。ご。ま。心。と。法。卒。大。勢  
を。け。く。毛。も。あ。て。ご。り。頼。光。ゆ。け。り。真。中。に。定

てついでにさへし。乞しとありておつぶせして大棟  
本(のり)と見えし。印(いん)ニあわける所打はず。  
捨(す)てらるゝ之(これ)頼政(たのり)の真途(まぢ)わくし。氏神(うぢがみ)の(守り)と  
る(り)ひり(ひ)かたりと(り)あり。今(いま)夜(よ)を(中)に(ま)く  
所(ところ)に(り)特教(とくけう)く(る)魚生(うしやう)の(形)四(よ)く(り)く(る)の  
物(もの)教(けう)を(れ)合(あ)合(あ)と(す)ま(ま)れ(ば)三(さん)位(い)九(く)十(じ)百(ひゃく)八(はち)子(こ)又(また)百(ひゃく)七(しち)余(あ)  
と(ぞ)り(ま)る。矣(や)教(けう)矣(や)形(かた)の(魚)生(うしやう)祠(ほくら)少(すく)し(け)く(り)り  
し(り)に(か)り

才(さい)早(はや)入(い) 棄(す)衣(い)懸(けん)衣(い)かま(ま)ノ

岡(おか)主(ぬし)乃(の)云(い)量(りやう)置(お)く(る)心(こゝろ)石(いし)垣(かき)と(も)海(うみ)の中(なか)に(り)一(ひと)人(ひと)  
比(ひ)歎(なげ)の(釜)八(はち)咫(つら)と(も)春(はる)石(いし)板(いた)は(ち)ち(り)死(し)も(も)山(やま)飯(いひ)に(り)

と(ぞ)三(さん)途(と)川(がは)へ(り)奥(おく)埋(う)ら(る)ぞ(れ)は(れ)け(り)三(さん)葬(まう)歌(うた)川(がは)乃(の)燒(や)き  
い(い)る(る)ぞ(ぞ)く(く)大(おほ)将(しやう)軍(ぐん)今(いま)づ(づ)く(く)ひ(ひ)り(り)ま(ま)れ(ば)法(は)大(おほ)  
信(しん)子(こ)心(こゝろ)に(り)岡(おか)魔(ま)主(ぬし)成(な)ぬ(す)り(り)心(こゝろ)上(う)に(り)行(い)く(る)心(こゝろ)此(こゝ)  
や(や)あ(あ)ら(ら)ら(ら)命(いのち)助(たす)け(り)あ(あ)し(し)と(と)い(い)く(る)あ(あ)と(と)の(の)信(しん)子(こ)心(こゝろ)  
あ(あ)は(は)法(は)の(の)女(むすめ)人(ひと)の(の)祈(いのち)祈(いのち)を(を)け(り)る(る)女(むすめ)人(ひと)の(の)老(お)も(も)る(る)も(も)  
あ(あ)し(し)と(と)い(い)れ(る)も(も)賊(ぞく)と(と)い(い)女(むすめ)人(ひと)の(の)山(やま)事(こと)女(むすめ)人(ひと)か(か)さ(さ)け(け)あ(あ)く  
わ(わ)の(の)地(ぢ)が(が)ま(ま)な(な)は(は)く(く)と(と)い(い)る(る)も(も)色(いろ)を(を)く(く)惟(ただ)一(ひと)人(ひと)と(と)い(い)ふ(ふ)  
そ(そ)の(の)時(とき)乃(の)り(り)も(も)と(と)思(おも)ひ(ひ)ま(ま)つ(つ)も(も)か(か)れ(れ)今(いま)よ(よ)と(と)わ(わ)く(く)も(も)あ(あ)ら(ら)な(な)い(い)  
あ(あ)ら(ら)な(な)い(い)と(と)い(い)ふ(ふ)の(の)心(こゝろ)を(を)ま(ま)る(る)善(ぜん)提(だい)の(の)心(こゝろ)を(を)り(り)た(た)女(むすめ)人(ひと)と(と)い(い)ふ(ふ)  
そ(そ)の(の)時(とき)乃(の)り(り)も(も)と(と)思(おも)ひ(ひ)ま(ま)つ(つ)も(も)か(か)れ(れ)今(いま)よ(よ)と(と)わ(わ)く(く)も(も)あ(あ)ら(ら)な(な)い(い)  
あ(あ)ら(ら)な(な)い(い)と(と)い(い)ふ(ふ)の(の)心(こゝろ)を(を)ま(ま)る(る)善(ぜん)提(だい)の(の)心(こゝろ)を(を)り(り)た(た)女(むすめ)人(ひと)と(と)い(い)ふ(ふ)

とやちよもの物ふくむ。此と云ふは、  
人として死なざるにむかひの死に廻り来りて、此を  
申はば、よふなれども、其に上下の出入りあひま  
し、此と云ふは、竹の子小春に若く、石をくらり付  
三途川のあはれ、海へながけいりて、洞の竹のふたひ  
さけぶ声、黒繩の御責乎よと、なれども、あひま  
祓はれ、是をいひて、あくで、二千餘案をうへりて、運  
のけくは、時あり、あやうや、や、悲しむ、か、し、此  
く、あ、や、祓はれ、是をいひて、三途川と  
ぬ、く、し、く、や、か、り、ひ、ま、か、り、弗  
う、も、は、む、お、お、う、二千世界よ、か、れ、た、れ、此、御

あ、あ、く、あ、は、ま、ま、ま、運、の、く、く、あ、れ、お、く、く、あ、の、く、  
あ、万、年、の、末、は、少、く、骸、ハ、三、途、の、あ、屋、ハ、沈、ま、る、も、  
清、ま、り、ま、ら、ま、比、和、泉、の、洞、深、し、く、ふ、所、ハ、道、志、と、云、  
教、奇、者、坊、主、あ、り、け、ら、ぶ、風、の、ん、比、が、く、夜、あ、く、死、  
て、比、獄、よ、来、つ、ま、い、ま、は、此、が、あ、つ、づ、け、見、お、よ、来、あ、く、ま、  
途、と、つ、り、こ、さ、ける、が、比、獄、あ、く、も、教、奇、者、の、ん、く、や、あ、く、も、  
ま、ん、だ、ハ、幾、世、久、ま、あ、る、か、れ、ハ、引、茶、耳、茶、ハ、梅、胡、株、  
堂、乃、う、ら、ふ、し、ま、ら、茶、入、乃、わ、り、わ、り、あ、く、あ、く、あ、く、あ、く、  
は、こ、も、有、多、又、塵、ハ、ぬ、け、あ、り、た、古、く、茶、盆、乃、う、ハ、  
づ、か、ま、あ、わ、る、ハ、う、後、乃、ご、ま、ら、け、ら、ぶ、事、由、ご、れ、  
よ、は、ま、ら、い、く、わ、く、塵、わ、り、け、ら、ぶ、後、ま、ら、あ、く、一、教、奇、

初、殿をへは切りの茶をてしておのんた志は  
 教方まかろしゆめいれあふはほくせよとしてや  
 うれ。伝達し茶とのるま申しありやせんし。これ  
 が後少す。心は見えおのほよりとあり。因入つげ  
 えそのした。何あくも。かりあ。よ。ぬと。う。なら。め。い。あ。り。  
 ち。ち。後。の。お。わ。れ。た。此。の。欲。あ。う。ご。老。あ。く。ほ。う。が。り  
 て。の。り。は。し。え。ん。賣。て。代。お。と。寄。羅。皮。義。乃。座。入。押  
 り。く。ま。わ。り。勇。ふ。ま。と。う。如。お。な。う。ま。あ。ん。と。ま。け  
 不。あ。よ。納。入。懸。く。り。本。傳。乃。え。ん。の。よ。ご。に。向。傳。わ  
 茶。壺。乃。や。め。わ。ら。う。し。か。ん。し。わ。さ。し。が。ぞ。か。り。い  
 立。後。乃。え。ん。の。わ。げ。ま。い。の。茶。之。け。汁。入。る。え。れ。の  
 とも。焼。の。は。が。よ。英。茶。七。八。せん。め。介。く。あ。ま。り。ん。く  
 ら。れ。か。ら。し。た。あ。ぐ。く。ん。よ。わ。の。の。り。ひ。あ。く。ま。し。と。え  
 て。ゆ。り。ご。う。が。り。ち。れ。ま。や。け。お。ま。ご。り。鼻。紙。行  
 の。ご。の。よ。包。も。し。ご。う。ご。う。志。壺。乃。販。と。や。く。く  
 し。あ。く。ご。が。ぐ。

比ご。後。ま。ご。う。焼。才。の。茶。壺。と

ね。バ。之。違。の。う。ご。ま。の。て。し。り

後。の。独。去。つ。ご。ね。が。何。家。と。か。け。る。あ。よ。懸。夜。糸

の。舞。歌。乃。所。ご。よ。ま。石。こ。は。あ。ふ。め。う。し。の。い。ん。の

ち。ご。ま。ご。う。次。の。も。ご。ん。の。さ。ば。や。ご。の。さ。ご。ご。ご。ご

懸。夜。糸。の。ご。う。ご。ご。ま。も。あ。ご。う。は。か。ん。ご。い。ご。ご。ご

又。懸。夜。糸。の。ご。う。ご。ご。ま。も。あ。ご。う。は。か。ん。ご。い。ご。ご。ご



祓禊のふしはむいふ人修む命ハとせられたる。守  
護氏士ふらして也。夜事ハ。何事ぞとて回されば  
果科ありて。罪よ當事あらけあけいそ子細ハ  
名むも亦事亡人の惟子古ゆへ。男女老少上下  
あつて。びんたなり。事皆此が。あつて。あつて。い  
うおし。尸小。何夜亡人。冥途。闇。あつて。あつて。廣泉  
の。名。様。と。い。く。漸。く。八。苦。堂。小。村。亡人。在。り。中。小。こ。こ  
ろ。う。こ。こ。女。性。上。膳。を。い。安。婆。あ。く。い。ふ。と。し。妙。り。ね  
や。う。た。何。と。い。う。女。が。社。ハ。何。の。洞。是。ハ。紅。の。血。よ。深。く  
され。る。わ。ん。げ。じ。と。び。と。い。く。あ。く。く。妙。り。ね。あ。つ。て  
か。い。は。し。め。あ。つ。て。こ。も。あ。つ。て。と。情。を。く。い。奇。鸞。鶴。乃

何うか。心。能。と。振。起。惟。一。空。と。い。だ。尸。付。之。膳。並。身  
と。合。乞。一。ま。あ。く。く。ハ。心。救。へ。く。乞。と。い。れ。り。つ  
せ。あ。何。あ。く。膚。と。か。く。と。い。う。ま。う。こ。遠。く。ハ。心。切。り  
こ。ゆ。り。し。や。ん。承。り。れ。ば。女。の。ま。う。く。ら。何。あ。く。く  
い。い。べ。い。と。い。う。と。ん。と。ん。熱。あ。つ。て。お。お。う。と。お。お。あ。つ。て  
わ。く。喪。事。あ。つ。て。さ。う。さ。う。さ。う。い。だ。尸。付。は。衣。着。え。が。て  
あ。つ。て。い。だ。い。故。あ。つ。て。ハ。免。事。い。せ。ハ。あ。ま。い。い。よ。衣。着。が  
何。と。い。う。と。あ。つ。て。尸。付。ハ。腋。と。互。に。衣。着。す。け。く。わ。の。い  
ら。い。尸。小。付。乞。北。あ。く。く。ら。縮。布。大。の。枝。に。あ。つ  
け。い。だ。尸。付。乞。北。あ。く。く。某。科。小。何。し。ハ。衣。着。を。く。い  
長。と。い。う。と。何。乃。い。だ。女。と。い。う。と。命。助。さ。せ。ま。く

かくくしやばち。儀乃長士。すてがうしくくも。あぐ  
も。心の相。衣衣。情。あ。ぬ。去。ふ。衣。衣。と。此。  
と。幾。年。月。の。あ。い。ど。と。死。つ。る。此。が。さ。ん。げ。云。法。  
た。小。命。と。せ。し。因。づ。つ。し。つ。の。あ。ん。と。こ。ふ。あ。ん。よ。衣。  
衣。独。り。よ。君。く。何。の。さ。ん。あ。い。と。と。恥。し。あ。い。の。  
衣。衣。あ。り。ぞ。れ。ハ。あ。い。く。る。く。さ。い。づ。と。恥。て。て。恥。  
さ。く。し。あ。い。し。命。と。も。お。程。よ。く。西。行。法。師。と。や。ん。  
ふ。遊。世。坊。さ。う。お。う。年。は。け。て。又。こ。せ。し。と。あ。  
さ。や。命。か。り。あ。い。し。よ。の。中。ふ。し。讀。ら。な。れ。ぞ。  
鬼。も。人。も。命。に。ま。ま。か。り。あ。い。の。い。づ。ち。よ。し。と。夜。の。  
と。こ。小。火。た。し。来。し。命。と。い。ふ。と。い。げ。く。と。遊。り。

か。く。の。儀。也。と。幾。の。月。她。が。む。じ。く。情。ち。こ。て。因果  
あ。ら。ず。ら。し。じ。く。あ。く。後。の。女。人。の。祈。願。と。い。う。か。れ  
し。あ。く。事。女。人。ま。じ。の。の。祈。願。も。万。の。い。た。り。て。い。  
色。づ。く。此。が。相。俤。な。し。て。神。々。い。さ。か。い。い。づ。と。し  
あ。細。い。な。ら。し。り。と。て。究。の。深。く。二。丈。計。よ。り。せ。中。に  
村。と。う。ら。鉄。の。く。さ。わ。あ。く。衣。衣。と。あ。り。村。六。七。人  
宛。し。て。お。お。石。と。ぶ。ら。わ。け。入。く。石。こ。ば。あ。よ。お。  
教。し。る。相。と。後。ま。い。こ。衣。衣。さ。う。ん。と。う。う。和。し  
ほ。い。迄。笑。な。り。わ。板。子。あ。い。陳。へ。生。捕。る。大。淵。臨。む  
二。鬼。が。ま。す。り。夕。夕。人。と。さ。う。い。う。ひ。ま。い。バ。と。三。鬼  
ハ。命。助。九。思。寺。へ。け。つ。り。く。比。叡。岳。量。改。死。也。三。途。志。

神なくならしむるや、神なくならしむるや 神も亦圖王法まふらさ  
 せよこの物に<sup>ひ</sup>旨<sup>ひ</sup>あ鬼よ<sup>ひ</sup>ア<sup>ひ</sup>ころせよ<sup>ひ</sup>ハ<sup>ひ</sup>二鬼あり  
 余の助あふ<sup>ひ</sup>旨<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>ハ<sup>ひ</sup>久<sup>ひ</sup>を<sup>ひ</sup>飛<sup>ひ</sup>して鬼<sup>ひ</sup>し<sup>ひ</sup>今<sup>ひ</sup>の  
 習<sup>ひ</sup>は<sup>ひ</sup>久<sup>ひ</sup>ハ<sup>ひ</sup>大<sup>ひ</sup>形<sup>ひ</sup>も<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>お<sup>ひ</sup>め<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>鬼<sup>ひ</sup>も<sup>ひ</sup>ま<sup>ひ</sup>ぬ<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>時  
 よ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>ハ<sup>ひ</sup>生<sup>ひ</sup>づ<sup>ひ</sup>い<sup>ひ</sup>か<sup>ひ</sup>れ<sup>ひ</sup>ず<sup>ひ</sup>ゆ<sup>ひ</sup>よ<sup>ひ</sup>祇<sup>ひ</sup>ホ<sup>ひ</sup>グ<sup>ひ</sup>王<sup>ひ</sup>乃<sup>ひ</sup>圖<sup>ひ</sup>魔<sup>ひ</sup>王<sup>ひ</sup>  
い量<sup>ひ</sup>微<sup>ひ</sup>少<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>自<sup>ひ</sup>害<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>殘<sup>ひ</sup>王<sup>ひ</sup>も<sup>ひ</sup>同<sup>ひ</sup>枕<sup>ひ</sup>よ<sup>ひ</sup>死<sup>ひ</sup>骸<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>か  
 ら<sup>ひ</sup>俱<sup>ひ</sup>生<sup>ひ</sup>獄<sup>ひ</sup>卒<sup>ひ</sup>迄<sup>ひ</sup>し<sup>ひ</sup>思<sup>ひ</sup>い<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>よ<sup>ひ</sup>指<sup>ひ</sup>ら<sup>ひ</sup>ぐ<sup>ひ</sup>同<sup>ひ</sup>さ<sup>ひ</sup>ゆ<sup>ひ</sup>  
 死<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>大<sup>ひ</sup>千<sup>ひ</sup>世<sup>ひ</sup>界<sup>ひ</sup>渡<sup>ひ</sup>き<sup>ひ</sup>す<sup>ひ</sup>ハ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>ぬ<sup>ひ</sup>心<sup>ひ</sup>乃  
 名<sup>ひ</sup>代<sup>ひ</sup>殊<sup>ひ</sup>さ<sup>ひ</sup>る<sup>ひ</sup>べ<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>よ<sup>ひ</sup>何<sup>ひ</sup>ぞ<sup>ひ</sup>今<sup>ひ</sup>生<sup>ひ</sup>る<sup>ひ</sup>心<sup>ひ</sup>計<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>も  
 通<sup>ひ</sup>ふ<sup>ひ</sup>子<sup>ひ</sup>を<sup>ひ</sup>舌<sup>ひ</sup>上<sup>ひ</sup>へ<sup>ひ</sup>逃<sup>ひ</sup>奔<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>し<sup>ひ</sup>お<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>る<sup>ひ</sup>ぬ<sup>ひ</sup>獄  
 獄<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>ら<sup>ひ</sup>ぬ<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>し<sup>ひ</sup>罪<sup>ひ</sup>ぬ<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>れ<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>う<sup>ひ</sup>が<sup>ひ</sup>ら<sup>ひ</sup>露<sup>ひ</sup>乃<sup>ひ</sup>余  
 と<sup>ひ</sup>は<sup>ひ</sup>れ<sup>ひ</sup>い<sup>ひ</sup>事<sup>ひ</sup>我<sup>ひ</sup>さ<sup>ひ</sup>人<sup>ひ</sup>に<sup>ひ</sup>惜<sup>ひ</sup>し<sup>ひ</sup>よ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>ぐ<sup>ひ</sup>切<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>終<sup>ひ</sup>ら<sup>ひ</sup>は  
 頭<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>べ<sup>ひ</sup>さ<sup>ひ</sup>心<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>人<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>笑<sup>ひ</sup>て<sup>ひ</sup>極<sup>ひ</sup>し<sup>ひ</sup>奇<sup>ひ</sup>物<sup>ひ</sup>也<sup>ひ</sup>事<sup>ひ</sup>ヤ<sup>ひ</sup>も  
 成<sup>ひ</sup>れ<sup>ひ</sup>さ<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>深<sup>ひ</sup>助<sup>ひ</sup>つ<sup>ひ</sup>こ<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>る<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>成<sup>ひ</sup>士<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>深<sup>ひ</sup>九<sup>ひ</sup>也<sup>ひ</sup>あ<sup>ひ</sup>人  
 送<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>れ<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>

反風卷下九  
 一  
 一  
 一